

玉虫塗の門番として、 宮城の伝統工芸品を より良くする 人・モノ・コトを取り入れて いきたいと思ひます。

有限会社東北工芸製作所
代表取締役

さうら やすひろ
佐浦 康洋 氏

プロフィール

昭和40年生まれ。仙台市出身。
平成元年3月明治大学商学部商学科を卒業後、ウォーターフォード・ウエッジウッド・ジャパン(株)に入社。平成4年3月に同社を退社し、現在の会社に入社。「玉虫塗は宮城県から伝統的工芸品に指定されていることもあって、昔から技術が変わらないと思ひている方も少なくないと思ひますが、実はいま、技術の改良も大変に進んでいます。塗膜が強化されて、ガラスや陶器に塗っても硬くなって剥がれない技術を完成させたことで、商品の幅が広がりました。ぜひ玉虫塗を日常生活の中で使ってみていただきたいです」と話す。



創業当初から 変わらない理念

— 中小企業庁主催の「がんばる中小企業」表彰、海外展開分野部門での受賞おめでとつございます。まず受賞の感想をお聞かせください。

弊社のような小さい中小企業が、全国という枠組みの中で認めていただくことができたのは身に余る光栄です。商工会議所さんや仙台市、そして仙台市民の皆さんの後押しがあつてのことと大変感謝しています。また震災以降、買い支えていただいたお客さまをはじめ、さまざまな団体にお助けいただいたことを大変ありがたく思っています。

— 御社のどのような取り組みが評価されたと思ひますか。

私どもが主に製作しているのは、宮城県の伝統工芸品である玉虫塗です。古くからある会社というイメージが先行しがちですが、玉虫塗は昭和7年に国策として仙台に設置された国立工芸指導所で「輸出」のために開発された特許技術なんです。創業当初から新しいことに挑戦し続けており、その理念は現在も引き継がれています。今回は伝統的な技術を用いながら、革新的な挑戦を続けている点を評価していただいたのではないかと思ひます。この賞をいただいたことで、これからもますます新しいことにチャレンジしていかなければならぬと覚悟を新たにしています。

いるところです。

仙台にゆかりのある人と 「コラボレーション」

— 「玉虫塗」は、海外でも高い評価を受けていますね。

以前から海外の展示会に出品することはありましたが、平成に入つてから徐々にその回数が増えました。そして震災以後は更に積極的に参加するよう心掛けています。日本の漆器は海外でもとても人気があるんですよ。

展示会に参加する目的は販路拡大ではなく、玉虫塗が仙台の方々に愛されてきたからこそ、いまここに存在する伝統工芸品なのだとすることをアピールするのが第一の目的なのです。伝統工芸品という冠をいただいた限り、きちんとした技術を受け継いで長く存在し、地元に戻恩返しすることが私たちの使命だと思ひています。

— 現在は、どんなことに力を入れているのですか。

現在はライフスタイルが洋風化し、和の生活で使われてきた漆器は入り込めない状況になってきています。そこで私たちは、いまのライフスタイルにも溶け込む商品をつくり、これまでは50代以上のお客さまが多かつた玉虫塗を、10代の方にも興味をもつていただくものにしようと、価格も手ごろなステーションナリーインテリアグッズを



ドイツ最大規模の展示会「DMY 国際フェスティバル」に出展した一枚

開発、販売することに力を入れていま
す。その中で人気漫画『ジョジョの奇
妙な冒険』、『ハイキュー』や、伊達政
宗公が登場するゲーム『戦国BASARA
RA』とコラボレーションした商品も
実現しました。私たちが連携させてい
ただくのは地元とご縁のある方々ばか
りで、『ジョジョの…』の作者である
荒木飛呂彦さんは仙台のご出身ですし、
『ハイキュー』の古館春一さんは仙台
で学生時代を過ごされています。先ご
腕時計の製作で一緒にいたイタリア
のファッションブランド『GUCCI』
は、以前から定禅寺ストリートジャズ
フェスティバルのスポンサーになるな
ど、震災復興にも熱心に取り組んでく
ださっています。

また、もう一つの取り組みとし
て、ただ飾るのではなく、生活の中
で自然に触れ、味わい、楽しむこと

ができる新シリーズを「TOUCH
CLASSIC」というコンセプトの
もとに製作しています。このシリーズ
のアートディレクターの小野清詞さん
は多賀城のご出身です。地元にご縁のあ
る方と連携することで、地場産品であ
る玉虫塗により強く親近感を感じてい
ただければうれしいですね。

玉虫塗の門番として 良いものを取り入れたい

最後に今後の抱負をお聞かせくだ
さい。

宮城県でつくって宮城県の人に愛さ
れなければ、玉虫塗の存在価値はあり
ません。ですから、地元の小学生への
課外授業を行ったり、玉虫塗体験をし
てもらおう活動も続けて、地元の工芸品
に玉虫塗に触れてもらう機会を設けて
います。また英語版のウェブサイトを
用意して、海外にもオンタイムで情報
を発信。海外から弊社にいらっしゃる
お客さまは、ほとんどの方がHPをご
覧になっているようですし、充実した
内容のウェブサイトをもっていること
は、会社の信用度を高める一助にも
なっていることが実感でき、立ち上げ
て良かったと思います。

私は自分のことを「玉虫塗の門番」
だと思っています。震災以後、一緒に
商売をしたい、技術に興味があるとお
声をかけていただく機会が増えてきま
した。玉虫塗を大事にして、育ててく

れそうな新しい仕事、新しい人、新し
い情報を取捨選択するのが私の仕事だ
と思っていますので、今後もより高い
使命感と緊張感をもって、門番として
の仕事に取り組んでいきたいと思いま
す。そして職人の後継者を育てながら
お正月のような晴れのシーンを彩る五
段重や屠蘇器といった豪華な玉虫塗か
ら、普段使いの玉虫塗まで、ご要望に
応じて、いつでも、これらのすべてを
ご提供できるコンディションを保って
いきたいと思っています。

【概要】

有限会社東北工芸製作所

代表者：代表取締役 佐浦 康洋

設立：1933年

従業員数：6名

事業内容：宮城県指定伝統工芸品である玉虫塗の漆器の企画・製作・販売を
行っています。

所在地：仙台市青葉区上杉3丁目3-20

TEL.022(222)5401

ホームページ：http://www.t-kogei.co.jp/

森

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐
き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクル
を、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。
そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)